

# 公文書館だより

第13号 平成17年3月30日

通常展示

## 資料にみる神奈川の歴史

開催期間 五月一日～八月三十一日

新年度最初の企画（通常）展示である「資料による神奈川の歴史」も今年度で六回を数え、「神奈川の歴史」を古文書や公文書で紹介するこの展示もすっかり定着しました。今回は少しだけ展示の案内をさせていただきます。

古代の代表的な資料が、宮久保遺跡（綾瀬市／複製）出土の木簡です。木簡とは本の札に文字を墨書したもので、荷札、物品の請求や進上・出納の伝票、通行手形など様々な用途に使われました。この宮久保遺跡出土の木簡は、発見された当初は、県内最古（年代が記されているものとして）の文字資料として注目を浴びました。文面は「表 鎌倉郡鎌倉里 軽部口寸稻天平五年九月 裏 田令 軽部麻呂郡稻長軽部真国」とあり、わずか三十字ですが、地方行政や財

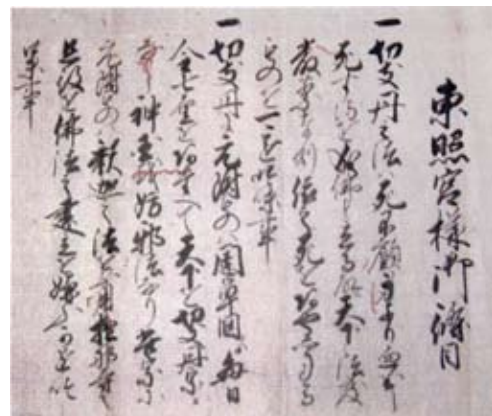


政など様々な実態を示唆しています。また、中世では、後北条氏関係の史料を多数展示します。これは、公文書館が「豊前氏古文書」という足利氏や北条氏と深い関係を持つ豊前氏（医者の家柄で卓越した医術により、足利氏や北条氏から厚い信頼を得ていた）の文書を多数所蔵していることによるもので、これらは戦国時代の神奈川に関する第一級の史料ともいえるでしょう。



「北条氏康書状」豊前氏古文書（館蔵）

さて、展示室の正面は近世の神奈川です。天正十八年関東に入国した徳川家康が、慶長八年征夷大將軍に任命され、江戸に幕府を開きました。この時期から記録史料の数が激増します。



「東照宮様御条目写」小塩家文書（寄贈）

県内にも多くの武家文書や地方文書（名主文書）が残されており、当館にも多数の文書が寄贈・寄託されています。これらの史料によって、具体的に江戸時代の人々の生活を知ることが出来ます。それらは、歴史の教科書や参考書からは知ることのできない貴重なものです。

この機会に、是非一度来館して、生きた歴史に触れていただきたいと思います。今回の通常展示がほんの少しですが、歴史理解の手助けになれば幸いです。

展示を終えて 平成一六年度 第三回企画展示

## 幕末の神奈川

今回の「幕末の神奈川」では、ペリー来航以前の異国船の来航にも焦点をあてて、展示を構成しました。

第一章では、ロシアが漂流民を送り届ける口実で日本に開国を要求していたことと絡めて、幕府の政策（薪水給与令・打払令）を紹介し、江戸湾の防備にも触れました。ペリー以前の外国との攻防もご理解いただけましたでしょうか。



「黒船画」瀬戸家文書（寄託）

東海道各宿場への助郷や、この時期に集中して起きた災害（地震や大風）による疲弊、横浜周辺への移住者の増大による農地削減、開港に伴う諸物価の高騰などが、庶民の生活に多大な影響を与えました。華やかな横浜とはまた違った歴史が県内各地に存在するのです。



「貿易契約書」池津珍蔵  
関係文書（寄贈）

また、開国後の神奈川の様子も第四章で紹介しました。

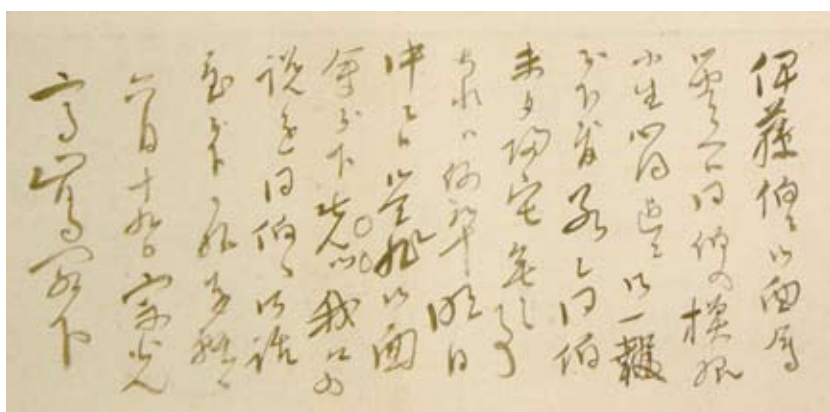
開港というと横浜だけが注目されますが、横浜が開港されたことで、神奈川県内（当時の武蔵国の一部・相模国）も影響を受けています。東海道各宿場への助郷や、この時期に集中して起きた災害（地震や大風）による疲弊、横浜周辺への移住者の増大による農地削減、開港に伴う諸物価の高騰などが、庶民の生活に多大な影響を与えました。華やかな横浜とはまた違った歴史が県内各地に存在するのです。

今回の書簡は高嶋陸軍大臣に、伊藤博文の近況を尋ねたものです。

ミニ展示

## 陸奥宗光の書簡

開催期間 五月一二日～六月三〇日



「陸奥宗光書簡」山口コレクション  
（寄贈）

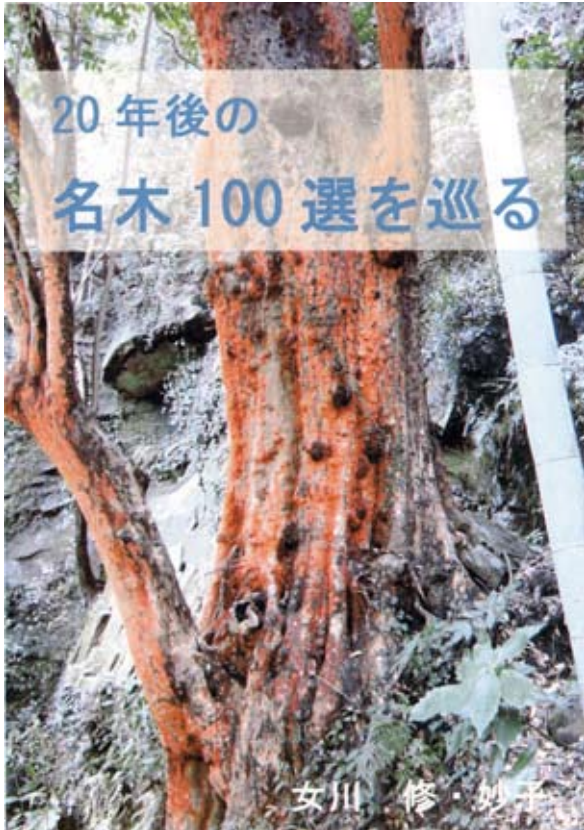
## 所蔵資料紹介

### ● 行政資料

「二〇年後の名木百選を巡る」

女川修・妙子 著

「かながわの名木一〇〇選」の選定は昭和五九年のこと。選定から二〇年が過ぎた名木の様子を、写真と文章で綴ったものがこの「冊子」です。パソコンとプリンターによるデスク・トップ・パブリッシングの限定四部。いわゆる書物でもなく、文書とも少し違います。



約八ヶ月をかけて一つひとつの木を訪ね歩き、丹念に記録してきた著者たちの静かな熱意は十分に伝わってきます。木への旅で出会った人とのやりとりなどを、抑制の効いた筆致で淡々と記し読む者を穏やかな気分させてくれるでしょう。

二〇年前の木の状態を記録した写真集、『かながわの名木一〇〇選』（県教育委員会、昭和六二年）も当館で所蔵しているので、比べながら見るのも楽しいと思います。

### ● 古文書資料

## 大澤家文書

曾根原直子氏から寄託されたこの文書は、相模国高座部蓼川村に知行地を有した旗本大澤氏の家伝来の古文書です。

大澤氏は、貞享三年正月豊昌が御廊下番に召出され、切米（蔵米）百五〇俵を給されて幕臣となりました。初めて蓼川村の領主となった人物は先祖豊昌から七代目に当たる直行で、天保一一年一二月、五百石加増されて蔵米取りから地方知行に替わり、上総国市原郡北五井村と蓼川村高三百拾老石五斗壺升四合が与えられました（掲出写真）。以後、大澤氏による支配は幕府が崩壊するまで続きました。家伝文書には、領地に関する「知行所人数帳」の外、「記録」と表紙に書かれた日記があり、それを見ますと、弘化二年四月一〇日の条に蓼川村名主勝兵衛が「代助郷」の件で領主大澤氏を訪ねた記事があり、道中奉行に差出す願書のことで領主と名主とが相談している事実や願書提出の使者に名主勝兵衛が同道していることなどが記録されています。名主が村の経営のために領主と相談し、領主がその対応を記録した

史料は、遺存例が今日では数少ないものと思います。

大澤家文書は、寄託により一般に存在が初めて明らかになった新史料であり、領主側史料として既刊資料集を補完する重要な役割を果たす貴重な古文書です。

郷村高帳請取書（記載内容の全文）

相模国高座部

一、前代名主勝兵衛

田原氏家伝文書

右大澤氏家伝文書

右大澤氏家伝文書

右大澤氏家伝文書

右大澤氏家伝文書

右大澤氏家伝文書



# 平成十七年度行事のご案内

## 展示のご案内

- ★**通常展示**
- ・「資料にみる神奈川の歴史」
- 五月一日～八月三十一日

## ★**企画展示**

- ・「公害・環境問題とかながわ」
- 九月二四日～十一月二五日
- ・「古文書に見る庶民のくらし」
- 一月二五日～三月一二日

## ★**常設展示**

- 一年を通じて公文書館の資料による展示がご覧いただけます。
- ・「伊藤博文の書簡」：内閣制度を創設し、自ら初代内閣総理大臣に就任した博文の書簡を紹介します。
- ・「関東大震災をめぐって」：大正一二年九月の震災とその後状況について、当館所蔵の戦前期公文書などの資料を用いて紹介します。
- ・「吉田松陰の書簡」：旅を実際の学問とみた松陰の日記を展示します。

- ・「長洲知事関連資料」：昨年度寄贈された長洲一二人知事関連資料から主なものを紹介します。
- ・「徳川斉昭の書簡」：水戸藩主で弘道館を創設した斉昭の書簡を紹介いたします。

## ★**ミニ展示**

- ・「陸奥宗光の書簡」
- 五月一日～六月三〇日
- ・「廃藩置県後神奈川県知事となった宗光の書簡を紹介します。」
- ・「ゆめ国体とゆめ大会」

- 七月一日～八月三十一日
- ・「神奈川で開催された第五三回国民体育大会（ゆめ国体）と第三四回全国身体障害者スポーツ大会（ゆめ大会）」に関する所蔵資料を紹介いたします。
- ・「副島種臣の書簡」
- 九月一四日～一〇月三〇日
- ・「マリア・ルス号事件を担当し、特命全権大使として清国と交渉にあたった種臣の書簡を紹介します。」
- ・「土地を読む―土地宝典の世界」
- 十一月一日～十二月二五日
- ・「佐久間象山の書簡」
- 一月一日～二月二八日

- ・「江戸時代後期の思想家で、幕政改革、藩政改革、世界の形勢等にわたって見識を述べた象山の書簡を紹介します。」
- ・「苦難を苦痛の歴史」
- 三月九日～三月三十一日
- ・「当館所蔵資料によって、ハンセン病の患者・元患者の方々に対してとられた政策について紹介します。」

## 講座のご案内

今年度は、古文書解説講座を次より開催します。ふるってご参加ください。

- ・中級講座
- 五月一日～六月一二日の各日曜日（五回）
- ・「江戸時代の資料を中心に解説し、歴史を探究します。」
- ・上級講座
- 一〇月一六日～一〇月三〇日の各

- 日曜日（三回）
- ・「歴史的事実の確認や時代背景を探ります。」
- ・入門講座
- 二月五日～三月一二日の各日曜日（六回）

初めて近世文書を解説するための入門コースとして開催します。

- ・一日講座
- 一二月四日
- ・「津久井地区の施設を利用して、その地域の歴史の理解を深めます。」

## 館利用のご案内

- （利用時間）
- ・閲覧室↓午前九時～午後五時
- ・会議室↓午前九時～午後九時
- （利用方法）
- ・閲覧室↓開架されている資料は自由に閲覧できます。また、書庫内の資料は受付に請求して下さい。
- ・会議室↓どなたでも自由に申込みできます。

## 「会議室利用予約」変更のお知らせ

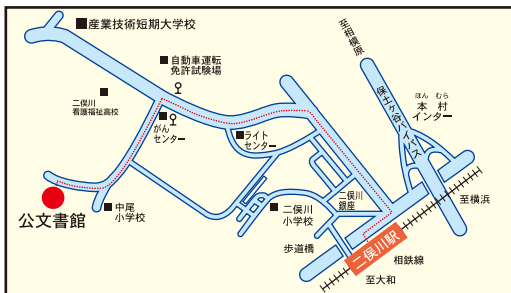
平成十七年七月から、皆様がより簡単・身近に施設をご利用いただけるよう、インターネットや電話等を利用して、自宅などから会議室等の利用予約ができる「公共施設利用予約システム」がスタートします。

会議室のご利用にあたっては、事前に施設の窓口で利用者登録をして

いただく必要があります。

公文書館での登録手続きは、四月一二日（火）から行います。詳細は管理企画課まで問合せを御願いたします。

（〇四五―三六四―四四五六）



交通の案内

電車の場合 相鉄線「二俣川駅」（横浜駅から急行で11分）  
下車/徒歩17分又は相鉄バス「運転試験場循環」行きで「運転試験場」下車徒歩3分

車の場合 「保土ヶ谷バイパス」本村インターから6分

## 編集後記

公文書館の事業を、多くの方から知っていただくため、平成一五年度から「公文書館だより」を年二回発行し、また各市町村の生涯学習センターや町内会など関係各位のご協力をいただき広報に務めてきました。おかげをもちまして、展示観覧者等来館者の増加につながり、効果をあげることができたと考えております。今後とも一層のご支援を御願いたします。

神奈川県立公文書館だより（第十三号）  
平成十七年三月三〇日発行

編集発行 神奈川県立公文書館  
〒二四一―〇八一五  
横浜市旭区中尾一―六―一  
電話 〇四五（三六四）四四五六



古紙配合率100%再生紙を使用しています